

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	大狭間湿地保全事業								
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	文化財保護係	評価票作成者	文化財保護担当係長 近藤よし江	
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化			基本施策	文化財の保護		コード	4 1 3
		「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			単位施策(中)	学習環境の整備		コード	4 1 3 1
	項	生涯学習の推進			単位施策(小)	自然環境の保護		コード	4 1 3 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	大狭間湿地		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	本市にわずかに残る貴重な湿地を保護し、自然環境を守ることの大切さをPRする。				
1-5 事務事業の内容	湿地に生息する生物の種類や出現の時期などを記録し湿地環境の変化を把握する。現在の環境を維持するため除草など管理を行う。種の持ち出しや持ち込みなど人為的な生態系の影響を及ぼさないよう定期的な巡回や防護柵の維持管理を行う。湿地が育む生物を観察し自然の大切さをPRするため自然観察講座を開催する。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	自然観察会の開催、除草、入口扉の修理など。	周辺地域の都市化による自然環境への影響が懸念されている。	本市にわずかに残る貴重な湿地に生息するハッチョウトンボやシラタマホシクサなど希少種の存在が、自然保護への意識を向上させている。	本市にわずかに残る湿地に生息する希少種を一般公開し、自然保護の重要性を市民にPRすべきとの声もあるが現状では難しい。	数年間にわたる自然観察講座を通して市民の関心が高まっている。
平成19年度	自然観察会の開催により市民へのPRおよび除草等の環境維持に心がけた管理。		〃			
平成20年度	ボランティアとともに、湿地の保全管理に努めた。		〃			
平成21年度	講座の一部としての公開から、一般公開へと変更した。		〃			
平成22年度	一般公開を2回実施。湿地内の木道等の全面改修工事を行った。周辺地域の都市化による自然環境への影響が懸念されている。一般公開を進めていくことにより、湿地環境保護に対する市民の関心を高めていく。					
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明	
	湿地の調査・観察の回数(回/年)		12(回/年)	20(回/年)	調査観察によるデータを収集することにより、湿地に生息する生物の種類や出現の時期など湿地環境の実態を把握する。	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績a(単位)	12(回)	12(回)	12(回)	12(回)	12(回)				
直接事業費b(千円)	1,077	977	977	977	727					
人件費c(千円)	154	154	154	154	154					
合計コストd(b+c)(千円)	1,231	1,131	1,131	1,131	881					
単位コストd/a(千円)	1回当たり102.6	1回当たり94.3	1回当たり94.3	1回当たり94.3	当たり 73.4	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 借地料 687千円 除草委託料 40千円 人件費 154千円(12回×2人×2h×3200円)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(回/年)	12	12	12	12	12					
	後期目標値に対する達成度(%)	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0					

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A	A					

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	湿地環境の変化を把握するため定期的な調査観察が必要である。	防護柵等の老朽化への対策、観察記録回数の増加など。	自然観察講座において受講者の自然保護への意識が向上した。			
平成19年度	湿地環境の変化を把握するための、定期的な調査観察を継続する必要がある。	防護柵、観察橋の改修工事の予算確保、観察記録の整理分析。	自然観察講座において受講者の自然保護への意識が向上した。				
平成20年度	地球環境保護の声が高まる中、市中で稀なる湿地の保護の重要性が高まる。	観察橋などの改修工事費用について、モリコロ基金、緑の税からの助成を検討する。	自然観察講座において受講者の自然保護への意識が向上した。				
平成21年度	借地でなく用地買収することにより、自然環境保護を確実なものとする。	一般公開を継続していくために施設の改修を行う。	一般公開により300人の湿地見学者があった。				
平成22年度	児童生徒の学習教材としての活用を図る。用地取得に向けての計画策定と、取得のための財源積み立に取組む。一般公開により385人の湿地見学者があった。木道などの整備ができ、一般公開参加者や児童生徒の受け入れの環境が整いつつある。						
平成23年度							
平成24年度							
平成25年度							
平成26年度							
平成27年度							

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	自然観察会を増加するなど充実を図り、事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			